

―2012年に広島県と共同出資で、水道施設の管理・運営会社を立ち上げました。

「水みらい広島（共同出資会社）は当社が65%出資する日本初の民間主体による水道事業運営会社で、順調に業務範囲と管理地域を拡大している。広島県の理解もあり、PPP（官民連携）の先進事例となった。多くの自治体関係者から注目され視察も相次いでいる」

「ただ実態として、上下水道分野における

―17年11月に設置するが、まさに潮目を業環境が厳しくなっ

た『総合水事業本部』感じて機構改革に踏み切った。自治体（上下水道事業者）が抱える

「通常、新組織は年度替わりの4月に始動 悩みはかつてなら、設

品開発に経営資源を集めてもらっている。医薬品メーカー、薬業界に限らず、横展開を進めたい」

（おわり）

次の官民連携を具体化

水環境ビジネス トップに聞く④

king社長
水谷 重夫氏



備の老朽化する体制にする」
や運転技術 ―約2割の事業ウエ
者不足とい ートがある民間向けビ
った現場レ ジネスについて。
ベルの問題 「水処理のアウトソ
が中心だっ ーシング受託にとどま
た。それが らず、工場のユーティ
上下水道を リティー全体へ広がり
取り巻く事 をみせている。特に製

記者の目

水環境ビジネスの世界では「水メジャー」と呼ばれる欧州の大手企業が存在感を示す。日本も長年にわたり政府開発援助（ODA）で途上国の上下水道整備に貢献してきたが、施設の建設止まり。そんな状況下で水谷社長は世界を意識し、10年前に、和製水メジャーを標榜していた。言葉の端々に、水インフラへの熱い思いが垣間見える。

（編集委員・青柳一弘）

水インフラに熱い思い